

## 徳島県総合計画審議会「南部圏域部会」 会議録

1. 日 時 令和4年8月30日（火）午後4時15分から午後5時5分まで
2. 場 所 徳島県南部総合県民局 阿南庁舎2階 大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員（19名中WEBを含め15名出席）  
青木部会長、井上副部会長、大地委員、兼松委員、岸委員、酒井委員、坂本委員、谷澤委員、橋本委員、濱崎委員、林委員、町田委員、小林委員、鶴委員、平井委員
  - (2) 県  
総合政策課長 ほか
4. 議 題
  - (1) 新たな総合計画の策定方針について
  - (2) その他  
<配布資料>  
資料1 新たな総合計画の策定方針  
資料2 「未知への挑戦」とくしま行動計画（「将来ビジョン」抜粋）
5. 議事録
  - (1) 事務局から、事前に総合計画審議会山中会長から青木委員が部会長として指名されている旨を連絡
  - (2) 川人総合政策課長挨拶
  - (3) 青木委員、部会長就任挨拶
  - (4) 青木部会長から、井上委員を副部会長に指名
  - (5) 意見交換  
事務局から資料1・2について説明の後、意見交換が行われた。

(井上委員)

井上です。前の会議でも言わせてもらったのですが、こちらに長期ビジョンで書いてあるように、誰でも過ごしやすい環境づくりというふうに書いてあるんですけども、特に子育てですね。これから移住者とか、今住んでる方が過ごしやすい、子育てしやすい環境づくりってというのが非常に大事になってくるので、その辺りを重点的に60年頃に向けて何か政策を、問題点などを踏まえてやって行けたらなというふうに思っています。県南に今年も観光客がたくさん来ていたのですが、やっぱり皆さん来たらすごく喜ばれるんですね。こんないいところがあったんだ。徳島県内でもやっぱり県西部の人は初めて来たとか、そういったものも今年もありました。なので、徳島県内でもやっぱり知られてない、県南のいいところだったりとかを、もっと魅力を発信していけるような取組がもっと、もっと必要なと思いま

す。そうすることで、こういった60年頃の姿が実現できると思うので、私も含めて発信していけるような取組も一緒に頑張っていけたらなと思っています。

(青木部会長)

ありがとうございました。それでは続きまして大地委員さん、よろしくお願いいたします。

(大地委員)

大地でございます。よろしくお願いいたします。

「未知への挑戦」とくしま行動計画を拝見いたしましたら、現在、徳島県で起こっている全ての問題の根源として、人口減少・高齢化があるように思います。水産業で特に心配されているのはですね、担い手不足ということになりまして、その中でも、人口減少を食い止めるには、単純に出産数をあげるのか、海外から人を受け入れるかの2点しか改善方法がないのかなと感じます。2060年のとくしまの姿、ダイバーシティとくしまとされておりますけれども、人口増加に向けて、いわゆるどんな人かというものには選択の余地というものはもうすでに無いのではないかと思わざるを得ないのが、今の徳島県南部圏域の現状で、二人に一人が高齢者という現実です。出産数が好転しないまま、いつまでも現状回避のための数多くの施策を打ち続けるのではなく、どこかのタイミングで世界から人を本格的に受け入れる体制を取らなければ、人・モノ・お金の流れはストップするのではないか。美波町内の話ではありますが、求人を長期間はりだしている飲食店や、新聞の折り込みに求人広告を見ることがあります。業者さんからは、雇用したいが働ける人が居ないという話も聞きます。特に水産業のような肉体労働系では体力のある若い方が必要となり、エイジレスも限定的だと感じます。人を一気に受け入れるということは現実的ではありません。たくさん問題を解消しつつ、着々と具体的な数字を決めて、進めていかなければ突然できるものではありませんので、継続力、忍耐力が必要だと思います。世界では2050年に人口が100億人を超え、人口爆発が起こると危惧されているようで、日本に居ると少子高齢化が目立つので、不思議な感じが致しますけれども、それぞれ管理された具体的な行動計画を遂行していただけるよう望みます。以上です。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。続きまして兼松委員さんよろしくお願いいたします。

(兼松委員)

時間も押してるようでございます。先ほどから、人口減少とか、あと災害列島、それからコロナ禍、大変なことになっております。今日は1市4町の皆さん方がこちらの方にお集まりいただいております。観光と言うことを考えた場合、もう阿南市が頑張っても、牟岐町が頑張っても、海陽町が頑張っても、美波町が頑張っても、那賀町が頑張ってもどうしようも

ないと思います。とりあえず今日お集りいただいております、1市4町が四国の右下観光局を中心となって、一つとなって関西圏の方から観光客をコロナ禍がいち早くウィズコロナに転換できるようになりましたら、協力してやっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

(青木部会長)

ありがとうございました。続きまして岸委員さん、よろしくお願いいたします。

(岸委員)

フラットで構わないということなので、力を抜いて、まず、大阪・関西万博の花火っていうものが、打ち上げられると非常に話題になっていますが、どうやら関西連合ということでもう作られて、徳島はそれに属さないというところでちょっとはみ出しているようになります。いやいや、徳島も関西じゃないのと。阿波弁もそんな感じだし、という交渉しているんですが、なかなかそこは上手くいってない。海からそういう方を引っ張ってきて、徳島であげて、大いにお金を使っただけのような、そんな大きなスケールのものができたらすごく楽しいなと思います。

ちょっと話が変わりますが、先ほどの将来像というところですね。すごくいいなと思うところが2点ありまして、最近穴喰とかで、花火を上げる機会が多くて、よく行くことがあるんですが、サーフィンやってるメンバー、すごく若手の、僕らと同じぐらいの年代の方と話す機会が増えてきました。生活のスタイルがですね、心が豊かな部分が多いのか、例えば着てる服がどういう風に作られているのか、どれだけ着れるのか、というところや自給自足、水は井戸の湧き水を汲んできたりと、そういう風なスローな生活でありながらも、自分たちはその海が好きで、環境が好きであると、で子どもたちとゆったりと暮らしたい。そういうふうなスタイルっていうのがすごくお金を儲けるとかですね、モノがあふれているという状況ではないんですが、そういう心の豊かさを感じるメンバーと話す機会があつて素敵だなと思いました。何かその人口が減少して行く中での、少しヒントになるものがそこに隠されているんじゃないかなと思いました。それとですね、あと一点あるんですが、子供たちに関して、何を残して行くのかみたいなのところっていうのは、先ほどの選択肢がもはやっていうところがあったりもするという話だったんですけど、ちょっと僕も緊張してて、何を言おうか、抜けた部分がまた思い出したら言わせていただきます。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。フラットにご意見ありがとうございました。続きまして酒井委員さんよろしくお願いいたします。

(酒井委員)

徳島県では、死者ゼロを掲げている、皆さん頑張ってると思うんだけど、高齢者のこの時代になって、それを守っていけるかなという部分もあるんです。で、自分たちはその死亡だけではなしに、私は防災士、徳島大学、文理大学、県医師会、社協、弁護士会といろいろな人と今組んでやっております。ただ、自分たちだけの力ではもう何もできないような気がします。だから色んな範囲を広げて、みんなでこれ立ち向かっていかな、出来ない問題と思います。以上です。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。続きまして坂本委員さんよろしくお願ひいたします。

(坂本委員)

先ほどの会議の意見と被るんですけども、生物多様性の回復保全活用による地域の持続可能性、地域の活性化が大事だと思っています。今回の皆さん、多様な専門の方がお集まりの中で、話を聞いていて本当にいろんな問題があるんだなということを改めて認識させられるんですけども、県南域の大事な要素にはやっぱり1次産業なのかなって改めて思わされてですね。生物多様性には四つの恵みがあるというふうに言われていて、その四つの恵みの中の一つが、このまさにその私たちが頂いている、一次産業の産物である食糧であったり、木材であったりします。その生態系の回復保全活動と一次産業って本当に直結するものだから、ぜひその県南域の自然環境の保全、生態系の保全と一次産業の活性化というのを同時に解決できるような地域戦略、広域戦略ができたらいいなと。それを動かす市民共同のネットワークができればいいなというふうに思いました、以上です。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。続きまして谷澤委員さん、よろしくお願ひいたします。

(谷澤委員)

よろしくお願ひします。広告会社をしておりますので、広告の立場で思うことがあり、お伝えしますと、SNSが行政は好きなのかなと思って聞いておりました。SNSってお金がかからないし、定量化して報告しやすいですし、好きそうな感じがするなと思って。でもSNSは自治体はみんな大好きですから強豪があふれています。だから、もう割り切ってますね、電車広告とか駅の広告とか、品川で一日疲れて、品川駅から家まで一時間半かけて帰るぞっていうお父さんが、サーフィンしてる大きいパネルとか見て、一時間半の通勤で見て、徳島なんて書いてあるコピーなんか見たらこれ移住するんじゃないかなって思ったりします。なので、お金の使い方とか、知恵とか、先ほど岸さんおっしゃいましたけど、まるごとパビリオンちょっと置いてかれ気味なところがあつたりとか、その万博ですね。万博でなんか置

いてかれちゃってるところがあったりとか、そういうのって徳島内で SNS で小さく小さくアピールして発信していったりしていると、もうしょうがないんじゃないかなと思ってます。だから、東京駅にバーンと大きい広告を出してみるとか、万博の方も徳島の中で意見交換するだけじゃなくて、じゃあ高知どうしているのとか一緒にやろうとか、大阪の中に組み込んでいくんだったら、私たちこの阿南庁舎で話し合っている場合じゃないかもしれない。大阪に行って、大阪の人と話をするべきかもしれないなって思いました。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございました。続きまして橋本委員さんよろしく願いいたします。

(橋本委員)

橋本でございます。よろしく願いいたします。60年を見据えてっていうことですがけれども、やはり林業で私の方からお話させてもらいます。本質はどの時代でも変わらない。変わらないものを追求して行きながら、長期、中期ビジョンを見据えて、じゃあどうするか。やはり今、視察の方が多いのは以前は、今もそうなんですけれども、林業関係の人も多いです。それに加えて、今年は市民、一般の方とか子供さんとかいろんな人が見えます。それはやはり何かあって、どこかに心が豊かになりたいというのとまた安心感を求めているんじゃないかなということになります。そういう山づくりが必要だと思います。経済性だけを追求するのってというのはなかなか難しいです。私は小さい林業家ですが、経済性も追求していかなく。でもいや、それだけでないよねってということで、40年前からやっぱり環境を考えてどういうふうにしたら、いろんな生きとし生けるものが、その山の中で住み続けることができるかということを追求めなければなりません。なので、やはり環境、これからは少し環境にシフトして行かないと、今全国各地で災害が起きてますね。そういうところで、どうしてああいうふうになるのかと言うふうなことも考えながらやらないと、これからはちょっと経済政策だけではっていうふうなことを感じております。

やはり多様な、豊かな自然と持続可能ということがものすごく好き。語弊があるかもしれませんが、文章に出てくるんですね。でも、これものすごく難しいです。簡単に言葉で発しますけれども、現場で少しずつ少しずつ観察を積み重ねて行って、環境を考えながら観察する力をつけて、そしてその観察する力が子供達への教育につながっていくのではないかなと思っています。だから木育も子供だけじゃないと思う。大人もみんなが来てね、面白いねとか安心するよねとか、いろんなことを山の中で子どもは遊びを見つけたり、大人も新しい発見をしています。いろんな方に来ていただいて、そして心を豊かに保っていただいて、「いや、もう自分のとこの山あかんわ」っていう捨てた人も多いいんですが、でも、それをきっかけとして、「え、これなんか私もできるん違う」っていう、そういう意識を持ってもらうのも必要かなと思います。少し年も高齢になってきましたが、もうちょっと頑張ろうかなと思っており、柔軟な発想というところが必要です。頭がもう固まっているのかもしれませんが、

でも来てくださる方を通じて柔軟な発想、これもね、やっぱり必要ではないかと。だから、県の人も、大きい林業している人ばかりじゃなくて、もうちょっと小さな林業をする人も育て、新たな人も来ていただいて、そして頑張っってこの豊かな自然を育てながら、林業を私はやってほしいなと思っております。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございました。では、続きまして濱崎委員さんよろしく願いいたします。

(濱崎委員)

濱崎でございます。2060年の姿を見ると、それは私は115歳で。なかなか見ることができません。今、大地委員が言っておりましたように、私も一次産業の農協でございます。私も、お米は一町ぐらいを作っておりますけれども。本当に農協も漁協も山林も必要と思いません。一次産業に取り組む若者がいない。人口減が甚だしい。いかにして、この2060年人口を維持できるかっていう、喫緊の課題と思っております。本当に一次産業、農業も作物をつくらなければ、人間は生きて行くのには食べなければ生きていけません。産業、自動車を造っているのでは食べていけません。そういうことで、一次産業をもう少し日本全国で見直してそういうことで取り組んで、今以上に自給率を高めていかなければ、今後30年後、50年後どうなるか分かりません。今ロシアとウクライナが戦争しております。そういうことで本当に貧困国からも食べるものがなくなっている。この様な時代でございます。そしてまた、起こっている自然災害、いつ日本で起こるか分かりません。必ず、東南海地震も起こります。そういうことで食べる一次産業は本当に大事と思っております。今以上に一次産業が元気になる様な施策を国を挙げて取り組んでいただきたいと思っております。以上でございます。

(青木部会長)

ありがとうございました。続きまして林委員さんよろしく願いいたします。

(林委員)

ありがとうございます。私も105歳なんです。その先のことを考えてなかったんですが、資料の中からいくつか気になったキーワードを書き出して来ました。その前に兼松さんが観光のことをおっしゃってたので、先日8月7日の音楽の日という先ほどもお話ししましたけど、全国からお客さんがあり、観光と結びつけたかったんです。まだまだ力不足で、あまり観光と結びつけることができなかつたけれども、全国の方たちにチケットと一緒に、阿南市のマップをお送りしたんです。阿南市の地図が書いてあって、どこそこにお松大権現があって、ここになになにがあってって名前が書いてあるんですが、それがなんなのか全然説明がなかったんです。そこそこの物語っていうのは多分あると思うんです。それも書いていた

だけると、もっとこう興味を持ってもらえるのではと思いました。全国から来られる方は本当にその地域で何か遊びたいと思って来られている、思っておられるので、こんな発信ができればなと思いました。

資料の中で気になったことです。事前防災とか減災についてなんですけれども、先日、徳島城公園でお庭を見ていたときにきれいだなと思ったんです。電線が横切っていないんですね。阿南まで帰って来て、市役所のまへの交差点で、前の電線を数えて20本まで数えてやめました。これって防災とか減災の問題だったんじゃないかなって思いませんか。地下埋設ってどうしてこう進まないのかなと思いました。徳島市内だけじゃなくて、電柱が倒れない、電線が切れないような、いつかそういう土地になればいいなと思いました。ただ海外から来られた方が、電線の横切っているのを見ると、ああ日本に来たと思うっていう意見もありましたので、よし悪しだと思うんですけど、気がつきましたので言わせて頂きました。

それと、未来を創造するたくましい若者が世界を舞台に活躍していますっていう文章もありました。本当に世界に行ってしまうんですね。特に演奏家に限って言えば、若い演奏家たちが海外に拠点を置いてしまっている。置いてしまってるっていうのもおかしいですけど、置いている演奏家はとても多いです、最近特に。当然、日本人なんですけど、来て頂くときは海外アーティストになってしまって、出演料の他に渡航費がかかり、しかも日本に来ている期間がとても短くてなかなかお呼びすることができないっていう状況です。もちろん海外で、だいたい欧米ですけども、海外で暮らすことで文化芸術的な刺激も多いでしょうし、学ぶことも多いだろうし、だから自分を活かすチャンスも多いだろうと思うんです。日本でもそういう彼らの芸術家たちの住みやすい環境とかいうのも作っておかないと誰もいなくなってしまうっていうような状況になるんじゃないのかなと心配です。今演奏家たちが本当に日本にいないくて、余所にいってしまうっていう状況も知っていたらなと思いました、以上です。

(青木部会長)

ありがとうございました。続きまして町田委員さんよろしく願いいたします。

(町田委員)

私もずっと皆様の意見を聞きながら、60年後の自分の歳を計算しても、私はもうこの世にはいないなと思いつつ話を聞いておりました。小学校6年生の子でも50歳です。ちょうど、今20歳の子は58歳で、30歳の子が68歳というような形で、たぶん人口は減少しております。あと高齢化も進んで、この間阿南市の水道代の向こう30年ぐらいの話で当面、阿南市の水道代は値上げしなくてもいけるような計算らしいんです。でもこれって災害がくると多分変わるかと思えますし、多分人口も減っていると思えます。今言ったように災害っていうと食べるのが一番なので、今から食育についてを、小さいときからテーマに入れていただくのと、一次産業、農業とか漁業であれば災害が来ても食べていけるかなと思いま

した。で、今何もかも、先ほどの会でも言いましたが、値上げですけど、いまから 38 年後、お金出しても、もしかしたらガソリンとか買えない時代がくるか、もうわからないですね。いま戦争するだけでもちょっと値段が上がってるので、そういうのを見据えた、強い取組が必要なかなと思いました。林委員の話の中の、演奏者が全部海外に行くってことから、では日本に呼び込むにはどうしたらいいのかを今考えたんですけど、日本には伝統文化があるかなと思って、「道」のつくもの。剣道とか柔道とか書道とか華道とか茶道とか。その日本らしさを見直して、むしろ少ないならば外国とかから呼び込んでくる。あと、働き手ももっと積極的に外国の人から呼んできて人口減少の歯止めをするのが課題かと思いました。ただ、自分生きてないのでピンとこないなので、まとまりなくすみません。以上です。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。続きましてウェブでご参加の皆さんにお願いをいたします。それでは、小林委員さん、よろしくお願いします。

(小林委員)

よろしくお願いします。皆さんの口から人口減とかいうことが出てますけれども、私、実は 40 年前に実家の美波町に U ターンしてきた時に、もう人口減っていうことをその時点から言い出して、みんなにそんなこと絶対ないって言われる時から言い出して、一人でこつこつ、こつこつ移住コーディネーターって言われる前から、自分で一人ずつ何と言われようと人を集めたんですね。その時に予言したことが非常に現在、当たっているっていうことに、ものすごい怒りと悲しみを感している現状です。今後さらに 60 年っていうことを見据えて言いますと私の予言が当たらなかったらいいんですけど、もう私無人化かと違うかと思っています。本当に。それぐらいのんきに人口減を止めようとかそんなこと言うてる場合と違いますよ。本当に今。みんな。でそういうことを、もう少し私が 40 年前に感じた恐ろしさを、今もっともって怖いと感じて真剣に考えていただきたいと思っています。そうじゃないと、こうやって委員会なんかできるわけじゃないですからね。本当にそれは思っています。死ぬまで私は人口増というよりもどうにかして街が形としてあるように、人を増やしていかないとやっていけないなと思っていますので、人ごとと思わずに、一人一人が、一人の人が一人を人口呼んでくる、どうにかするっていうことをすると、意外に一気に増えるんですよね。そういうこと考えてやっていただきたいと思っていますので、ただそれだけです。ありがとうございました。

(青木部会長)

ありがとうございました。続きまして鶴委員さんよろしくお願いします。



(鶴委員)

今からの45年後の日本いろいろ調べてみましたら、何もかも縮小して暗くなることばかりだったんですけど、二人を一人で、ほぼ一人を支えるという恐ろしいこと言って。そう思った瞬間から支えてもらうという考えは、私たちは今すぐ捨てるべきだなと。自分も多分この頃は支えてもらうっていうふうな、もうそういうのはやめて、高齢になってもどうやったらあてにせず、自立していけるかっていうのを本当に本気で考えないといけないのかなと思ってます。じゃあ、やっぱり生きて行くためにはさっき言った、食べて行かないといけないので、どうしても私は今まであんまりそういうのをしたことないんですけど、第一次産業その野菜作るとか食べ物に携わるようなことを絶対していかないと、ひとりひとりがそういう気持ちでないといけないんじゃないかなと思いました。プラス、若い人たちもきつとこれからはデジタル化が進むので、テレワークとかがすごい主流になったり、教育でもそういう風になる流れ的にはなってくると思うので、住むところは選べるようになってくると思うので、その中で徳島っていうところを選んでもらうためには、やっぱりまず第一に津波とかの災害に強くってというのがもう大前提になると思うんですけど、なので、堤防を高くするんじゃなくて、やっぱり津波の危険性が少ない場所に本気で移動するっていうのにお金を使ったほうがいいんじゃないかなって本当に本気で思ったりします。安全っていうのが第一で、プラス、ダブルワークが主流になってくるのかなと思うので、自分がやっているテレワークでできる仕事プラス第一次産業の畑でもやってもらうっていうようなダブルワークを進めて、だから年老いた高齢者でも自立いつまでもできるような環境。子育て世代でも、自立しながらそういったダブルワークができる環境。で、質の高いというか、本当はこういった自然豊かなところで住みたいなと思ってもらえるような環境作りを本気ですれば、徳島も大丈夫なんじゃないかなと思います。すみません、以上です。

(青木部会長)

ありがとうございました。では最後、平井委員さんよろしく願いいたします。

(平井委員)

そうですね。橋本委員さんもおっしゃってましたけれども私も8月の11日、山の日に知事さんを交えてですね、剣山の山頂で自然環境についてトークを行ったところでございます。さて、この2060年ごろ、人が住んでいける地球が保っているんだらうかと私自身、今、現にこの1,301mのファガスの森にいて、つくづく身にしみて感じております。これだけの大自然がいつまで保っていけるものか。本当に、山は荒れて、荒れて、荒れていってるということをまだ皆さんお分かりになってない、なかろうかと思えます。先ほどね、小林委員さんもおっしゃってましたけれども、ずっとずっと前からこの人口減少おっしゃってました。まさにそのとおりだと思います。私自身もですね、人口減少についても、私たちもう滅亡集落なんですね。そういう状態になってきております。そしてまたそれでもまだ怖い

のがですね、この山奥が崩壊してしまうと、下流の発展場、絶対発展はないと思っております。どれだけの大きな災害があるかも分からないと思っております。私は、この会でも、それを考えていってほしいなあと思います。そしてまた、高齢者に頼りすぎているのではないだろうかとも私は考えております。先ほどもね77歳と、濱崎さんおっしゃってましたけれども、わたくしもついていっておりますのでね。ぜひこの自然を見つめて、私もそのために免許をもって有害駆除やっております。そしてそれを粗末にしないように命をいただくということで、加工施設の今運営をしてですね、食材としてファガスの森でも使わせていただいております。ですからこの自然環境、一番これからも重点的に私は考えていってほしいし、私自身も考えていこうと思っております。以上でございます。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。他に皆さん御意見とか継ぎ足しとか。岸委員さん思い出しましたか。はい、お願いします。

(岸委員)

兼松会頭もその場にいたかと思うんですけど、阿南の同友会のときにですね。東かがわの刺繍の会社の方が来てくれてまして。で、うちのところはものづくりで人口が減っていない会社、なぜかという、日本一の刺繍を作ってるからものづくりが好きな人が来ると。日本一のものができていれば、人は来るんだっていうことを言ってる。それは日本一のことができてないんだと、矢印を自分に向けるというか、人口が減少して行くってことはあるとは思いますが、自分たちにできることは何なのかというところで、高みを目指して、それに意見が合う人を引っ張ってくる力を持っていれば、それも会社単位で言うと維持できるかもしれないし、発展して行くかもしれない。それが言いたかったです。ありがとうございました。

(青木部会長)

ありがとうございます、貴重な御意見。ほか何か言い残したことがあるっていう人、いませんか。よろしいですか。

本当は僕いっぱいしゃべりたいんですけど、時間がないので、皆さん方の意見をお聞きして、感想一言だけ部会長として言いますと、やはり人口減少、高齢化社会、そして一次産業、また木育のことや担い手不足、魅力発信やマップのことや、また海外で演奏家が出てしまっているとか、そういった様々なキーワードが皆様方から出たと思います。ぜひともこの意見をまとめて、そのキーワードに基づく60年後の新しい総合計画に活かしていただければと思います。

それでは本日の会議の内容につきましては、後日これは言い残したというのがあれば、事務局の方まで御連絡いただければと思います。以上で予定していた議題については終了い

たしました。最後に、事務局から連絡事項等をよろしくお願いたします。

<事務局説明>

- ・本日の会議の公表について、事務局で取りまとめた上、御発言頂いた各委員に確認頂いてから、発言者名も入れて公開したい。

以上